

## (臨床研究に関する公開情報)

岡山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

### [研究課題名]

ヒックマンカテーテルを長期留置が可能であった症例の患者背景から考える効果的な患者指導

### [研究責任者]

看護部 (5A PCCU) 看護師 村上 明華

### [研究の背景]

肺動脈性肺高血圧症 (PAH) 患者のうち、内服での病状安定が困難になってきた患者や重症患者においては、PGI<sub>2</sub>持続静注療法が適応となる。西日本随一の肺高血圧症センターである当院では、これまでに 109 名の PAH 患者に PGI<sub>2</sub>持続静注療法の導入を行ってきた。PGI<sub>2</sub>持続静注療法は在宅で中心静脈に挿入されたヒックマンカテーテルを介した持続静注治療を継続する必要があり、薬剤の調製や管理、ヒックマンカテーテル挿入部の管理を患者自身や家族が行わねばならない。特に感染や脱落等の理由によりヒックマンカテーテルの入れ替えが必要となってしまうと患者に与える侵襲が大きい。当病棟ではこれまでも感染対策やヒックマンカテーテル管理方法指導の改善などについて取り組んできた。しかし、約 4 割の症例においてヒックマンカテーテルの挿入後 5 年以内に、カテーテルの入れ替えが必要となってしまう。一方で、6 割の患者ではヒックマンカテーテルが 5 年以上の長期にわたって入れ替えなしに使用できており、更なる患者指導改善により、より多くの患者で長期間カテーテルを使用可能にできる可能性が高いと考え本研究に取り組んだ。

### [研究の目的]

PGI<sub>2</sub>持続静注療法に必要な不可欠な、ヒックマンカテーテルが長期留置可能となる要因を患者背景から明らかにし、効果的な患者指導について検討すること。

### [研究の方法]

- 対象となる患者さん  
肺高血圧症患者の患者さんで、西暦 2003 年 5 月～西暦 2020 年 6 月の間に PGI<sub>2</sub>持続静注療法を 5 年以上受けられた方

- 研究期間：臨床研究審査委員会承認後からから 2021 年 3 月 31 日

- 利用する検体、カルテ情報

検体：使用しない

カルテ情報：

- ・性別
- ・エボプロステノール導入時の年齢
- ・PAH の分類 (I/HPAH、PoPH、CHD、CTD)
- ・カテーテル入れ替えが必要となった原因 (感染、脱落、劣化など)
- ・カテーテル挿入から入れ替えまでの日数
- ・当院と居住地の距離

- 検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

### [研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

### [個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者の村上 明華が責任をもって適切に管理いたします。

### [問い合わせ先]

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター

看護部 5A PCCU 看護師 村上 明華

電話 086-294-9911 FAX 086-294-9255